令和6年度第3回袖ヶ浦市郷土博物館協議会

1 開催日時 令和7年2月26日(水) 午後1時30分開会

2 開催場所 郷土博物館 研修室

3 出席委員

委員長	友田 賢司	委員	木曾野 真紀
副委員長	唐木 義昭	委員	地引 尚幸
委員	山田 悟	委員	近藤 敏
委員	今井 恵子	委員	高橋 久
委員	加藤 正人		

(欠席委員)

委員	前沢 幸雄		
----	-------	--	--

4 出席職員

教育長	鴫田 道雄	主幹	稲葉 理恵
生涯学習課長	重田 克己	主幹	桐村 久美子
顧問	稲木 章宏	副主査	水流 拓馬
館長	西原 崇浩		

5 傍聴定員と傍聴人数

傍聴定員	5人
傍聴人数	0人

6 議題

- (1) 博物館協議会委員長・副委員長の選出について
- (2) 令和6年度郷土博物館事業の成果と課題について

(3) 令和7年度袖ヶ浦市郷土博物館経営方針及び重点施策(案)並びに令和7年度事業計画(案)について

(4) その他

7 議事

事務局 本日は委員が選出されて初めての会議ですので、まだ委員長・副委員長が選出されておられません。仮議長を立てまして、議事を進行したいと思います。仮議長につきましては郷土博物館館長であります西原にお願いしたいと思います。

西原館長 それでは、仮議長ということで、しばらくの間ご協力いただきたいと思います。議題1、博物館協議会の委員長及び副委員長の選出について、事務局から説明をお願いします。

事務局 資料にもとづき、説明。

西原館長 今、説明がありましたとおり、委員長及び副委員長は委員の互選により定めるとあります。皆様からご提案があればお受けしたいと思います。ご意見などございませんでしょうか。ご意見がございましたら事務局から提案するということがよろしいですか。

(賛成)

西原館長 では、事務局をお願いします。

事務局 前期に副委員長を務めていただきました友田委員を推薦したいと思います。

西原館長 事務局のほうから友田委員を委員長にという案がございました。委員長の選出についてお諮りいたします。いかがでございましょうか。

(賛成)

西原館長 ありがとうございます。それでは続きまして、副委員長の選出ですが、これも事務局案ということでよろしいでしょうか。

事務局 副委員長につきましては、唐木委員を推薦したいと思います。

西原館長 今、副委員長につきましては、唐木委員ということで推薦がありました。いかがでしょうか。

(賛成)

西原館長 ありがとうございます。それでは、委員長に友田委員、副委員長に唐木委員が選出されました。委員長が決定いたしましたので、仮議長を辞し、これ以降の進行を委員長へ引き継がせていただきます。

友田委員長 では、議題（２）令和６年度郷土博物館事業の成果と課題について、事務局から説明をお願いいたします。

事務局 資料に基づき説明

友田委員長 議題（２）令和６年度郷土博物館事業の成果と課題について、何か質問ありませんか。

唐木副委員長 ３ページの④みんなにやさしい事業の推進で、高齢者施設の連携とあるのですが、どういう施設の方々が来てるのかということ、それから、こちらへ来てもらうために施設ごとに行くのか、個人なのか、そのあたりはどうなのでしょう。それから課題で、満足度が分からないとあるのですが、今までやった中でどういうのが良かったのかとか、そういう傾向がわかっているなら教えていただきたい。

事務局 高齢者施設の方の利用が、個人なのか施設で来るのかということですが、もちろん個人で来られている方はいらっしゃると思うのですが、個人で来られた方たちにつきましては個人の人数の統計しか取っておりませんので、こちらで高齢者施設との連携として把握しているのは、施設単位になります。私たちもまだそこまでの積極性が足りないかと思うのですが、来ていただいて、それぞれの団体で見学していただいて帰っていくというのが現状です。

唐木副委員長 見ていただいて、どういう興味があるのかといった傾向は分かりませんか。

事務局 それは、皆さんが好んで見学される場所を見ますと、２階に体験学習用に

昔の暮らしの道具が置いてある場所がありまして、高齢者の方たちからしてみれば、自分たちが昔使ってた道具、そういった懐かしいものがある所は、好んで見ていただけていると把握しています。

西原館長 補足ですけれど、先ほども申し上げましたけどアンケートを取ってないので細かいところまで数値的には把握していないのですけれども、大体来られる方は、近隣の市原・木更津の高齢者施設の方々です。施設の方としては、1つのコースになっていると思うんですけれど、こちらに来て、見ていただくというようなパターンで、高齢者の方に昔のことを思い出してもらって回想法的などところを目指しているのですが、満足感については機会がありましたら、確認を取ってみたいと思います。

木曾野委員 資料4ページの(4)博物館の社会的役割を意識し、地域に貢献しますの①周辺施設との連携の中で、ひらおかの里農村公園水土里ネット千葉大会というのがありますが、これはどんなことをしたのですか。

事務局 水土里ネットですが、こちらは農業振興関係の方々の全国大会になります。ひらおかの里農村公園の方に上総掘りの足場が設置されておりまして、これについて説明をお願いしたいという依頼がありまして、4日間西原館長と稲葉の方が対応しまして、参加者の方々に説明をしました。

地引委員 資料1ページの展示更新推進事業の展開というところで、入館者数が出ているのですが、それ以外に例えば普及事業等で例えばアウトリーチも含めてあると思いますが、県の方だとあの入館者数とそれから利用者数という数字を出しています。

それで、かなりの事業を行っていて、事業と利用者数もかなり多いと思います。例えば図書館の展示で、その資料を見ていけば利用者数になるわけで、学校に展示すれば生徒のみんなが見ているわけで、そうすると利用者数がいっぱい増えるし、議会対策としてもいいかなという気がします。

事務局 今のお話の利用者というのは、博物館の外で何かした時にそちらに参加された人数ということでよろしいでしょうか。例えば公民館等へ講師として呼ばれて話をしましたといったような時は、その講座の参加者の人数は統計として取らせていただいているというように、数字として、人数として把握できる場合は記録しております。お話にあったような利用者数という括りでは集計していませんが、それぞれの事業で人数が把握できる時には記録はしております。

地引委員 旧進藤家住宅の入館者数・利用者数はどういう風にカウントしているんですか？

事務局 旧進藤家住宅には管理人がおりますので、管理人の方で記録しております。

西原館長 旧進藤家住宅やアクアラインなるほど館は個別に記録しておりまして、三館を総合したデータも集計しております。

地引委員 確認のためお伺いしました。

加藤委員 実際にはこの出てる数字よりも多いと思います。体験学習の子供の数は入っていますか。

西原館長 最近の統計では入っています。学校に参加した子供たちの人数を確認して記録しています。ミュージアムフェスティバル等でも可能な範囲で集計していますので、多少の幅はあるかもしれませんが、それなりのデータは蓄積しているのではないかと思います。

友田委員長 本館を使ってくれている方はカウントはできているということですね。

西原館長 はいそうです。ただ 1 つカウントできてないのが、万葉植物園です。万葉植物園を利用した方についてはさすがにそこまで把握できないので、万葉

植物園の利用者を入れるともっと上がることになります。ですので、あまりやらないのかもしれないですけど、トイレのみの利用の方がいらっしゃるので、そういった方の把握のためにもトイレのみの利用者の方も人数には入れております。

友田委員長 実際はこの人数よりも多いということですね。他に何かにご質問のある方はいますか。

では、(3) 令和7年度袖ヶ浦市郷土博物館経営方針及び重点施策(案)並びに令和7年度事業計画(案)について、事務局から説明をお願いします。

事務局 資料に基づき説明

友田委員長 (3) 令和7年度袖ヶ浦市郷土博物館経営方針及び重点施策(案)並びに令和7年度事業計画(案)について、何か質問ありませんか。

唐木副委員長 博物館の使い方について、方向性を見るのにいろいろ検索してみたんですけど、目に留まったものがいくつかありました。

1つは、ついでに寄ってもらうことです。博物館までの散策ルートがあって、通常は最後に博物館だと思うんですけど、そうではなくて、街歩きの中で店とか観光の途中に、博物館がそれとなく入っている。要するに街歩きのついでに博物館によってくれませんかというスタンスなんですね。でも、当博物館でついでに寄ってくれませんか、と言ったら、あまり近くに店とかないですから、1つはゆりの里へ来た。ついでに寄ってくれませんかというものです。1番多いのは、公園に来たついでに寄ってくれませんかだと思います。以前ですけども、企画展をやった時に「公園に来てる皆さん、散歩だけでいいんですか」というような掲示を出していたことがありましたね。あれは要するに、せっかく公園に来たんだから、企画展でも見ていったらどうですか、というような意味合いで掲げていたと思うんです。簡単だと思うんですけども、それならばもうちょっと広げてみて一年を通して、「皆さん博物館でちょっと休憩してみませんか」というのはどうなのかな、ということです。それで、中に入って、ついでに中を見てもらうのもいいし、それじ

やなくても単純に休憩してもらっただけでも、さっきトイレの話もありましたけど、それでもいいのではないのでしょうか。要は博物館に入りやすくなる環境、そういうのがとても大事ではないかと思います。それで、博物館についてのアンケートをちょっと見たんですけれど、これはいろいろある中の一部なんで参考として見ていただきたいんですけど、博物館に行かない理由ということで、博物館は非常に堅苦しい、それから静かにしていないといけない、一人だと行きづらい、このような答えがあったそうです。

逆に博物館に行った人については、見たい展示があったから行った、いろいろ見て見識を広げたいとか、勉強になるから行ったといった感じでした。そんな中で、ちょっと変わったのが、「雨が降っていたので行きました」というのがありました。これは私がさっき言った博物館で休憩して行きませんか、というのと同じような発想じゃないのかなと思うんですね。博物館を喫茶店とかの代わりに使ってくれというわけではないですけど、そういうようなイメージを博物館に持ってもらえたらと思います。さっき言ったように、博物館のイメージはネガティブなイメージです。この辺のハードル下げる工夫が必要なのではないかと思います。

もう1つは、鑑賞から交流へということです。博物館は確かに、色々展示していますから、生で物を見ることができます。ただ、見るだけでは、今いろんな情報がありますから。見ようと思えばいくらでも見られるんですね。それで、じゃあ博物館に対してどういうことが求められているのかというと、文を読んでみますと、「博物館では人が集まり、コミュニケーションが生まれる空間としての役割が問われている」というような部分がありました。それで、この7年度の当博物館の重点施策にもあの交流というのがいろいろ謳われてますけれど、私はこれにちょっとプラスアルファをしていただきたいなと思うんですけども、以前私は中学校のPTA役員もやっていて、そこで役員同士の懇親会をしましょうということになって会場を探しました。通常は市内の飲食店を探すのが普通なんですけれども、その時は東京湾カントリークラブのレストランを使わせてもらいました。そこは当然ゴルフ場ですから、ゴルフに来たらお客さんが使う場所ですよ。だけど、私たちのような一般客に貸してくれました。これと同じように、博物館でも関係が薄いと思われ

る交流もあると思いますが、そういう交流に対しても柔軟に対応してもらったらどうなのでしょう。もしかしたらそういうことから何かがまた生まれてくるかもしれない。だからこういうのはこうだっていう風に決めつけるのではなくて、発想して、いろいろと柔軟に対応してもらったらいいいのではと思います。

加藤委員

確かに今、唐木さんの言った通りだと思います。私もあの市民学芸員に応募した時には、この博物館はもうちっとも面白くないという風に豪語しました。というのは、いくら無料であっても、その場所に行って、何かこう得るものがあったり、楽しくなければいけない、そうですね。そこで私が市民学芸員に応募して始めたわけですが、その時には市民学芸員、一般市民の感覚で見たまま、博物館で行動したらどうなのかということで、一般市民の目線で我々も博物館の中で参加しただけです。内容としては、例えば季節ごとのひな祭りの雛飾りだとか、五月人形だとか、七夕だとか、日本の行事ですね。こういうものをやって、一般市民の目線によって引きつける。それで、やっぱり見て楽しいという風な感じにしました。ただ、古文書があるとか、昔のものが展示してあるだとか、それだけでは子供たちだって全く分からないわけです。それで何かこう面白さを求めてやり始めたのが、桜のシーズンには進藤家で、桜祭りで餅つきだとか、そういう一般参加、体験できるようなこと、それから十五夜コンサート。コンサートで音楽好きを呼び、夜で竹を切って竹灯籠をやったり、そういう風にどんどん引きつけて行っただけなんです。ただ残念なから、私も含めて年にだんだんなくなっていくと、それだけの気力がなくなって、体力もなくなって、どんどん人数も減って行って行くんで、新しく市民学芸員も追加して、牌を増やしていったらどうかということを提案して、今一生懸命募集をやっているわけですね。それで、こんな中でまた新しいことが出てくれば、また一般市民の目線が博物館に向くかなと思うんです。

西原館長

ありがとうございます。なかなかハードルが高いご意見なので、そこまで対応できるか難しいですけれども、まず、気軽に入れるような状況というこ

とでは、さっきも申し上げましたけれども、ちょっと寄ってみませんかみたいな、夏、冷房効いているから涼みに入りませんか、というのもやったことがありますして、夏休みに寄贈していただいた映像を定期的に流して、歩いている人に入ってもらうという努力をしたこともあるんですけど、夏は道を歩いている人がいない状態で、なかなか集客にはつながらなかったです。それは言い訳になっちゃうかもしれないけれども、気軽に入れるということについては意識していきたいと思います。さっき雨降ったから入ってきたという話がありましたが、やっぱり入りやすい雰囲気があったのか、それとはちょっと分かんないですけど、そういった館になればいいなと思います。

それから、ここの散策マップみたいなものは全体的なものはないんですけども、企画展の関係で、バスを使ってこの博物館に来ていただくという取り組みもありまして、バスの時刻を書いたマップを作って、この周辺、山野貝塚も含めて、周辺を歩けるような両面刷りのカラーのマップを作っております。そういった取り組みも全くやってないわけでもないんですけど、そういった取り組み効果が出てくればいいかなと思います。

やはり、ゆりの里と袖ヶ浦公園と連携していくことが、1番成果がでやすいのかなと思っておりますので、まずはミュージアムフェスティバルですね。ここでまず公園とまつりを同日に開催するとか、連携した取り組みで集客を行っていくということも、またやっていきたいと思います。

それと交流の方ですけども、これについてはなかなか難しいかなと思います。正直言って市の施設として博物館は市民の方にとって、あまり位置的にいいところがないというのが現状で、それは何とかしなければいけないところではあるのですが、そういったちょっと目線を変えた取り組みというのにも必要なかなと思いますので、またこの考えさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

近藤委員

8ページにも4のところ、この共通認識を持った管理というのと、後から4ページのところにもやっぱり共通認識を持った管理というのが書いてあるので、その共通認識とは何なのか。それから、私も今住んでいるところで、自治会の会員ですが、本当に先ほど館長さんの話がありましたけど、7・8・

9月は本当に暑くて、小学校の施設を借りて防災訓練とか夏はもうできない。小学校側も、警報が出ると小学校で何かあったらいけないというので、警報が出るのもうやめてくださいということで、3か月準備したイベントが中止しています。

それが多分、今年は5月から猛暑が始まるというような話で、ちょっと7・8・9月じゃなくて5・6・7・8、もう半年ぐらい野外活動ができないような可能性もあるので、そんな中で直射日光避け地ですけれど、この公園の中に涼しいところあるよ、というのは大事です。うまくこの管理組合と共通認識を持って、この夏季の猛暑をどう博物館を活用してもらうとかですね。そういうことも含めて考えていただければなと思います。

あと有名なので、地球の歩き方という本があるのですが、これで日本の歩き方あります。その千葉版が出ましたが、博物館は書いてないのですが、袖ヶ浦公園はある。だから有名な雑誌にも載るくらい袖ヶ浦公園は有名なわけで、それとうまく連携してった方が賢いかなと思います。それにはその夏の公園利用者をうまく取り込む。暑いと公園も行かないって話にもなるのですけれども、公園に博物館があるよ、というところ。付加価値を公園としても高めてもらう、そういう素晴らしいロケーションなので、うまくそれを利用していった方がいいですね。駅前に博物館があるというようにはならないので、それはそれとして、こういう場所にあるということ自体が素晴らしいことなので、それをうまく持っていくみたいなこの共通認識は何なのかな、というところもあると思います。その情勢もあると思います。

事務局

公園管理組合との共通認識とは何かというお話ですが、これは共通認識が何かというよりは、もっと情報を共有して、例えば博物館としては、公園の中の一角であり公園の一部であるということ、逆に公園の方として博物館をあまり意識してないのではないかと、いうところも実際あるので、そういうところから少しずつ打開していきまして、お互いにいいところ、一緒に何かやっていけば相乗効果が生まれるというところを理解した上で、もっと一緒にいろいろな事業ができるのではないかと、そのためにはまず共通認識って言葉が適当かは分からないですけど、お互いの縄張りとか、それぞれの

持ち分みたいなところを理解し合った上で、協力し合いたいというところで共通認識という言葉を使わせてもらっています。

近藤委員

万葉植物園は当然万葉集に詠まれた植物ということですが、現在は研究が進んで、縄文時代利用植物はかなり特定できますから、縄文植物園というものも造れるわけです。それに対してはもう公園管理の方でエキスパートがいらっしゃるわけですから、そういうところに新しく植栽して行ってもらうとか植栽計画に入れてもらうことですね。単なるドングリじゃないです。何の種類、何の実が取れるとか、それはもうかなり細かく同定したので、それが継続して弥生から古代、万葉に繋がってくってことはもうかなり見えてきましたので、その辺でうまく情報提供して植栽計画に入れて行ってもらうって、意味付けある役割をやっていただくといいなと思います。それで、その成果を博物館でもいただいて、展示に生かしたりすることもできると思います。これだけ立派な公園があるのですから、利用していかないともったいないと思います。

高橋委員

今年度いろいろ参加して、今の魅力化という話で、本当に僕自身が興味持ったことではあるんですけど、袖ヶ浦学でチバニアンやりましたよね。山野貝塚のガイドコースに公園西側の木下層が露出している切通しがありますが、チバニアン層の上にあることを説明するとすごく食いつきが良かったですよね。他の遺跡よりもブラタモリ的な感じで、あそこは僕自身もすごく興味持ったけど、あのような所を重点項目というか、重点項目に古代の地層的なところって入ってないけど、どこにあるのかなという気がしたんですね。それで、そこから想像して、もしかして上総掘りも、例えば水が出るのもその地層の影響かな、という気もしてきたんです。だからいろんなものが重なって今があるんだけど、ウォーキングみたいな感じでセットして一緒に活用できるのかなと、今お話を伺って感じました。万葉植物園もスダジイとかマテバシイとか、縄文時代のどングりも入ってます。それもアピールするといいですね。

友田委員長 ありがとうございます。公園に来る、ここで時間がある人たちだったら、こっちへ寄ってくださってというのがあると思うんですけどね。ゆりの里に来る人って買い物だけ来る人もいないですか。ああいう方にも、寄ってもらえるといいですね。東京から絶対来ますからね。それで来て、どこかへ行く途中でちょっと寄って、野菜買ったら帰っちゃうからもったいないなと思います。

近藤委員 チバニアンに関係した昨日、NHKBS ですけど、フロンティアという番組で自然環境をずっと取り上げて、それでチバニアンが収録され、地磁気の逆転期はチバニアンですけど、地磁気の逆転が人類史にもかなり影響していて、地磁気の逆転がかなり脳に影響する、ということで、人類の関係でも生物にかなり影響が出るということが解ってきました。そういうところでうまく引っ掛けていくと、先ほど上総掘りも出ましたけれど、帯水層は水が溜まる粘土の層であって、そこで上総掘り掘るわけなので、それら自然地理も人文地理も含めていくと、かなり膨らむ内容を持っているというのがこの地域だと思います。現在、山野貝塚を調査していますが、山野貝塚の出入り口は、私は現場と相談している段階ですけど、おそらくこの上池の方から入ってきている。実は市役所側の谷ではなくて、小櫃川水系から入っている平戸川が多分深い滞りに当時なっている。そこから当時の環境復元を検討研究して、そうするとここ上池（公園）が入り口なのです。そういうことも含めて展示計画が今後非常に面白いことができるかと思います。

友田委員長 アピールポイントはいっぱいありますね。

加藤委員 資料7ページの記録誌の作成が令和7年度重点取組となっていますが、具体的にどういうことを考えていますか。

事務局 記録誌の作成は、加藤委員の所属している郷土を学ぶ会がこれまでに作ってくれた地域文化財データベースを基盤に、今まで調べられていたのが石造物中心だったと思いますので、よく石造物の報告書として刊行されている冊

子をイメージしています。研究者にも地元の人たちも使ってもらえるような、こんなところにこんなものがあるんだね、といったことがわかるような、そういう冊子を作ろうと思っております。

加藤委員 前回発表した後から、また新たに見つけたものがあって、私の方も体力気力の限界でまだ整理していないものが結構あります。

事務局 記録誌を編集していく段になりますと、私たちだけではなく、また郷土を学ぶ会にも協力していただかないといけませんので、その際にまた新しく見つけた情報等も出していただければ反映させていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

加藤委員 せっかく作った資料ですから、市民に是非活用していただきたいなと個人的には思っています。

友田委員長 他にありますか。

加藤委員 確か先週だと思いましたがけれども、日本経済新聞で全国の博物館で収蔵庫が足りないという記事が載っていました。それはどうするんだろうかと、どんどんどんどんそのまま持って、貯めて、他からも調達して、どんどんどんどん収蔵してる。この博物館もまさにそうだと思うんですね。収蔵庫がもう満杯で、通路にもどんどん置いていって、歩く場所もないというのが全国の博物館の現状らしいんですけど、ではどうするかと、中には提供していただいた方の了解を得ながらオークションに出したり、もしくは廃棄したりというやり方を取っているんですね。それで、この博物館でもそのような問題になってきているのかなと思ったのですけれど。

西原館長 今の加藤委員のご指摘なんですけれども、おっしゃる通りで、これはもうこの館だけでなく全国的な問題です。これについては、すでに廃棄を進めている館もあります。ただそれは、単に廃棄するのではなくて、廃棄する段階

の過程をしっかりと、なぜ廃棄しないといけないかというのを、検討委員会みたいなものを開いて、廃棄を決めたりしています。この館でも、もうかなり圧迫してきていて大きな課題ではあるんですけども、まだそこまで具体的には考えておりません。ただ、これはいずれはいっぱいになってしまいますので、何か案を考えないといけないかなとは思っていますが、ただまだ国の方もまだこれから取り組み始めていくというところなので、周りの状況も気にしながら、どうしていくのが1番いいかというのを考えていこうかなと思っています。

加藤委員 はい、分かりました。例えば、土器のマニアだとかマニアがたくさんいるので、これはやり方はいろいろあるかなと思うんですけど、売却というか、売却も市の運営上問題があるかなとは思いますが、そういうこともあるかなとは思っています。

西原館長 1番気になるのが、この博物館にもらってもらいたいと市民の方が思って寄贈してくれた行為を無意味にはしたくないというのがありますので、その時に収蔵庫がいっぱいだからもらえませんとは言いたくはないです。ただ、そういう現実的な問題を直視しながら、どういった対応がいいのか、やり方で考えなければいけない時期には入ってきていると思います。

加藤委員 全国の博物館では、同じ内容のものはもう受け入れないよという所が結構出ているのではないですか。

西原館長 そうですね。

加藤委員 だから、1つは置いといてもいいけども、同じようなやつが2つ3つあるなら検討する必要がありますね。中には、博物館はいらぬものを引き取ってくれるという考えの人も結構いるかと思っています。

西原館長 ただ、あの厳密に言うと、これとこれは同じように見えてるけど、よく見

ると違うという、そういうことを言い始めるとまた大変なことになりますけど、これから考えていきたいと思います。

唐木副委員長 前回、施設の中を見て回った時に、図書室が今使ってませんねという話があったのですが、そこは何か使う予定があるのですか。それと企画展をやる部屋がありますね。あそこは企画をやっていない時はどういう使い方をしているのですか。それからこれは私の感覚ですが、1階から2階に上がったところに踊り場がありますよね。2階のエントランスという感じだと思えるのですが、今昭和時代のものとかが置いてありますね。ちょっと天井を見た時に、天井が他より高く三角になっていますよね。ああいう感じだと、どっちかと言うと近代的なものを明るくして飾った方がいいような気がするのですが、いかがでしょうか。それで、図書室については、さっき言ったように、例えば休憩に入ってきた人たちに公開したらいかがですか。以上です。

事務局 図書室の話ですが、使われ方としては特に変更はないです。今も一般の方にも利用の希望があった場合は、申請していただき、お名前等をお伺いして使っています。図書室は以前にはオープンでも誰でも入れる状態だったのですが、残念ながら本の盗難が相次いでしましまして、やむを得ず現在のよう形にするしかなかったので、理想的な話をすれば、そこに司書でも1人いればとても使い勝手が良くなるだろうと思うのですが、現状では雇用するのは難しいです。本の内容としては一般的なものもあるのですが、比較的専門書のようなものもありますので、そういう専門的な本を求めてくる方の中には、リピーターもいらっしゃいます。

それから、企画展を行う特別展示室ですが、企画展を開催してない時は閉めている状態ですが、企画展を開催するには準備の期間が必要になりますので、いつも開けっぱなしで日付が変わったらいきなり企画展ができているというのではなく、閉めている期間に徐々に物を運び込んだり、少しずつ壁面を展示したりというように、準備のためにはどうしても閉めている期間が必要ということになります。

それから2階の、現在、昭和のものを置いている場所ですが、あちらは上から日光が入ります。天気良ければ明るいし、天気が悪ければあまり明るくないというように、外の天気の影響を受ける部屋でもあります。体験学習の際には、この研修室を明かりの教室に使い、それと交代という形で2階の昔の暮らしの部屋を使うという流れがよいこともあります。また、せっかく市民学芸員の方が昭和の部屋というのを作ってくれてありますのでそちらを活用しながら、昭和の物を少し入れ替えたり増やしたりして、今後も使っていく方向で今は考えております。

唐木副委員長 展示替えの予定はないですか。

事務局 資料の入れ替え程度の展示替えはあります。また、先々違った形の使い方をしていくことはあるかもしれませんが、やはりどこかに昭和の部屋というのは必要になるかと思えます。ですので、現在の場所をもし昭和の部屋にしないのであれば、例えば体験学習の際に同じ1階の中で移動しやすい、今、民俗展示室になっている所等に、昭和の部屋を設ける感じになるかなと思えます。現段階ではそこまで計画できておりませんので、当面は現状のままになるかと思えます。

西原館長 図書室の関係ですけれど、この博物館も社会教育施設として調査研究という性格を持っておりまして、それは私共職員だけではなくて、一般の方も含めて研究の施設ということになりますので、何かしらそういった調べられるところは維持していかなきゃいけないかなと思えますので、当面の間は現状維持かなと思えます。

それから、展示の関係ですけれど、一部屋をいじるということになりますと大変なことになってしまいますので、あくまで全体的な展示計画や改修ということを考えて時に改めて考えていこうと思えます。

事務局 もう1つご説明させてください。2階の昔の暮らしの展示があるところなんですけど、博学連携事業で子どもたち、小学校3年生が学習に来る時にで

すね。20名くらいの子どもたちがあの部屋に入って学習するっていう場面がありますので、そのためにも空間が必要だということもございますので、ここで補足させていただきます。

地引委員 7年度の話ではないのですが、岩波書店の『文化財の未来図』には、博物館で利用している資料とか指定文化財というのはごく一部で、その周りにはたくさんの文化財があると書いてあります。今日も道すがら長屋門を見てきたのですが、今後、取り壊される民家の中でも長屋門は記録すべき重要なものだと思います。その理由の一つに三ツ作の事例が気になります。三ツ作という地区には長屋門がありません。地元の人に伺ったのですが、昔、殿様がこの地区には長屋門を作らせなかったという話が残っています。確かに長屋門の両サイドの建物はありますが、門になっていません。禁止の理由は気になります。

袖ヶ浦には大曾根をはじめ多くの長屋門が残っています。歴史的な景観としてもとても素敵です。博物館の活動の中で、友の会や市民学芸員の方のご協力を得て調査いただけたら幸いです。

近藤委員 今日写友会から展示会案内を頂いたのですけれども、学芸員が撮るとつまらない写真撮るのです。まっすぐ正面から撮ったり、抒情的な写真って学芸員はあまり撮らないのです。現在、小湊鉄道の関係企画展で関わっていますが、いい写真がない。それで、こういうところをお願いすると、撮り溜めてる方がいらっしゃって、展示ということになると、著作権とか人格権とかいろいろありますけれど、もう広く公募して、企画展用の写真のストックをしていくとなかなか古いものをお持ちの方も結構いらっしゃる。今はデジタル化されていますけれど、プリントもあると思うので、そういうところから「何でも展」じゃないですけど、いいものを吸い上げて、その代わりに、著作権とか権利関係そういうものは、誰が撮った、何人手伝ったというのをきちっとデータを残しておいて、博物館に置いて保管なりする。そうすると、デジタルデータであればそんなに邪魔じゃないので、是非こういう場所があるならば、協議会の中にもお仲間がいらっしゃって、そのまた仲間ですらに

お持ちの方が繋がっていくので、学芸員で拾いきれないものが市民の中にくさんあると思うので、そういうところをつなげて行っていただければありがたいなと思います。

加藤委員 博物館にはそういう写真を結構やられている方がたくさんいると思います。やっぱり、普通に撮る写真と、博物館の目線とちょっと違うような気がするんですよ。だから写真やりたいから何でもというわけにはいかないと思うんですね。やっぱり目線が違いますから。でも、そういう団体に働きかけることはいいことだと思います。その写真が出たところで、今進藤家中心にひな飾りやってますけれども、実はこれあの飾ったその日私がSNSで流したんですよ。それで人に聞いたら、千葉から来てるだとか。あちこち遠くから結構来てる。それで、どうして知ったかという、やっぱりSNSを見て知ってるわけですね。だから今政治的にいろいろ問題になってますけれども、SNSの効果はすごいですよ。だから是非、この博物館の中でもちょっと専門的に人を置くというのは難しいかも知れないんですけど、担当を置いてその週ごとに、どんどんどんどん発信していけば、結構まだまだ人が集まるかもしれないと思います。

今井委員 計画していくのに、6月の最初の土日はミュージアムフェスティバルだよねとか、もう計画なさる方は意識してらっしゃると思うんですけども、年末にはお飾り作りがあるよねとか、ある日には万葉植物園でイベントがあるとか、そういうこの時期には博物館の大きい何かがあるということ、市民の方が頭の隅に置いておいていただけるような発信の仕方、あるいは毎回時期を変えない、この時期には必ずこれをやるんだということを何年も何年も続けていくというのが大事なことはないかと思います。それからさっきお話のあった小学校3年生の体験学習、アイロンをかけるんですよ。家族が先日お世話になったのですが、ここに来る前に自分で用意する。何を用意するかという、今日はタオルじゃダメなんだって、手ぬぐいだよ、みたいな感じ。彼らはメリヤスを着ていますから、あの布の縦糸と横糸がこう交差している手ぬぐいのようなものって、身の回りになんてないんですよ。そういう

のを探すっていうところから体験学習が始まっていて、それでここでやらせてもらったり、大豆をひいてきな粉を作って、それをお餅と一緒にご馳走になったり、頑張ってるんだなととてもありがたいなと思いました。私たちがフェスティバルの時に来てくれた人に体験してもらうのとは、密度の濃さが違う、終わった後にも学校へ帰って、きっと先生と反省みたいな話もするでしょうし、とても頑張っているんだと、大変市民としてありがたかったと思いました。

友田委員長 では、議題（４）その他に移ります。何かございますか？

事務局 議題（４）その他、特にありません。

友田委員長 では、以上で議事を終了いたします。ご協力ありがとうございました。進行を事務局にお返します。

事務局 議長ありがとうございました。

それでは、以上をもちまして、令和6年度第3回袖ヶ浦市郷土博物館協議会を閉会といたします。慎重審議ありがとうございました。

閉会

令和6年度第3回袖ヶ浦市郷土博物館協議会

会議次第

日 時 令和7年2月26日(水)
辞令交付式終了後から
場 所 郷土博物館 研修室

1 開 会

2 議 題

(1) 博物館協議会委員長・副委員長の選出について

委員長

副委員長

(2) 令和6年度郷土博物館事業の成果と課題について

(3) 令和7年度袖ヶ浦市郷土博物館経営方針及び重点施策(案)並びに
令和7年度事業計画(案)について

(4) その他

3 閉 会

第2 2期袖ヶ浦市郷土博物館協議会委員名簿

氏 名	選 出 区 分	備 考
まえざわ ゆきお 前沢 幸雄	学校教育 奈良輪小校長	再任 2期目
やまだ さとる 山田 悟	社会教育 文化協会	新任
ともだ けんじ 友田 賢司	社会教育 子ども会育成会	再任 3期目
いまい けいこ 今井 恵子	社会教育 郷土博物館友の会	再任 2期目
かとう まさと 加藤 正人	社会教育 市民学芸員	再任 2期目
きそ の まき 木曾野 真紀	家庭教育 保育ボランティアひよこ	再任 2期目
じびき ひさゆき 地引 尚幸	学識経験者	再任 2期目
こんどう さとし 近藤 敏	学識経験者	再任 2期目
からき よしあき 唐木 義昭	学識経験者	再任 4期目
たかはし ひさし 高橋 久	学識経験者 公募委員	新任

任 期 令和7年2月1日から令和9年1月31日まで

議題（2）令和6年度郷土博物館事業の成果と課題について

令和6年度袖ヶ浦市郷土博物館重点施策

1月31日現在

(1)地域の文化的な個性を探り、継承し、その発信拠点となります。

	項目	事業目標値	実績	備考
① 調査研究	袖ヶ浦市の縄文時代・弥生時代に関する調査		そではく考古学講座で活用	
	袖ヶ浦市内の生物に関する調査		令和7年度企画展で活用予定	
	中世荘園に関する調査		調査研究中	
	旧石器時代に関する調査		調査研究中	
	古代の植物利用に関する調査		調査研究中	

■成果
調査の成果を講座（そではく考古学講座）に活用することができた。調査の成果を企画展に活用することができた。

■課題
学芸員が業務の中で調査に携わることができる時間が限られており、企画展等といった機会がないと十分に調査の時間が取れない。

② 地域資料管理活用事業の展開	地域資料の調査収集及び活用		地域資料購入0件、活用7件	購入対象地域資料は調査中。活用は企画展Ⅰ・企画展Ⅱ・実習展・ロビー展示・常設展示・考古学講座・企画展Ⅱ関連事業
	収蔵保管資料の適正な管理		通年実施	温湿度管理。 収蔵庫3空調機交換工事
	収蔵資料の修復委託（奈良輪漁業組合資料）		1件（資料数31点）	
	ホームページによる情報発信	情報メディアによる資料公開 年3回	1回、随時HP更新	八日講行屋関係資料
	古文書等表題データベース作成		2,725件	再整理、目録修正件数
	『袖ヶ浦市史研究』第22号刊行		3月刊行予定	

■成果
・令和6年度は、7件の寄贈を受けた。館蔵資料修復も委託により計画的に進んでいる。古文書等表題データベース作成は、再整理により詳細な表題をつけることで、より活用しやすいデータベースとなっている。長年作業できていなかった菱田家古典籍のデータベース化も進めることができ、学校への貸出等、活用が可能な状態に整備が進んでいる。

■課題等
・市内に所在する資料の散逸について、常に情報収集、調査が必要である。特に、インターネットで販売される地域資料も多く、今後もそのような場所で売買されている資料については、購入、収集する必要がある。
・ホームページで資料紹介を実施しているが、わかりやすい表現や定期的な更新という点でさらなる努力が必要である。

(2)市民の学習の場・知的交流の場となって、地域文化の向上に貢献します。

	項目	事業目標値	実績	備考
① 展示更新推進事業の展開		本館常設展入館者数 23,000人以上	20,792人	1/31現在。R5年度は1/31時点で21,593人
	企画展2回			
	i 企画展Ⅰ「出羽三山と袖ヶ浦の山岳信仰」	企画展入館者数 4,500人以上/回	8,471人	R5年度企画展Ⅰ「井出先生の写真館」は8,198人
	ii 企画展Ⅱ「袖ヶ浦古墳大辞典」	企画展入館者数 4,500人以上/回	4,630人	R5年度企画展Ⅱ「袖ヶ浦の外来種」は6,476人
		特別展・企画展及び常設展示への収蔵資料活用 年3件	6件	企画展Ⅰ・企画展Ⅱ・常設展示
		企画展開催時の関連事業実施 企画展1回につき2回	13回	●「出羽三山と袖ヶ浦の山岳信仰」 講演会・バスツアー・展示解説会3回 ●「袖ヶ浦古墳大辞典」 講演会・バスツアー・展示解説会3回・体験会3件
	常設展示の部分更新（山野貝塚、民俗）		山野貝塚展示室更新 民俗に出羽三山信仰コーナー追加	企画展Ⅰの成果活用
旧進藤家住宅での各種展示（年1回）		5回	盆栽展2回・ひな人形展示1回・五月人形展示1回・内房総アートフェス1回	

① 展示更新推進事業の展開	ロビー展示・ミニ企画展等の開催		5回	・実習展・ロビー展示「あの夏を忘れない」・中学生職場体験ロビー展示「万葉植物園で探そう」・万葉こどもまつり「キットパス手形でペタペタ」作品展・風の会「新春大凧展示」
	千葉県誕生150周年記念事業 百年後芸術祭 内房総アートフェス協力		旧進藤家住宅、アクアラインなるほど館、古代復元住居（弥生時代）	5年度より継続
	万葉植物園の活用（市民学芸員協働実施）【令和6年度重点取組】			秋の万葉こどもまつり、QRコード
<p>■成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画展・特別展からロビー展示まで、多岐にわたる内容で展示を行い、市民への資料公開、情報提供に努めることができた。 ・2回の企画展はどちらも好評であり、企画展Ⅰは、市民にとって身近な「出羽三山信仰」をテーマに来館者からの情報で展示内容が成長する双方向性のある展示を試みた。企画展Ⅱはこれまであまり知られていなかった袖ヶ浦の古墳時代にスポットを当て、注目を集めた。 ・万葉植物園の活用については、QRコードの設置による展示解説機能の強化を試み、中学生の職場体験を活用して万葉植物園とQRコードの周知を目的としたロビー展示「万葉植物園で探そう」を開催した。 <p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本館常設展入館者数は、1月31日現在20,792人で、事業目標の23,000人に近づいている。外国人来館者が難しい利用者に対して、デジタルツールを利用した発信の検討も課題の一つである。 ・アクアラインなるほど館は希望の申出があるときに職員が対応し見学をしていただいているが、より有効な活用方法を試みる必要がある。 				
② 教育普及事業の推進	考古学専門講座の開催		5回	テーマ「弥生時代研究最前線」
	友の会、市民学芸員、上総掘り技術伝承研究会等諸団体との協働による事業の開催		4回	ミュージアムフェスティバル、自然と歴史の散策会、秋の万葉こどもまつり2024
	博物館講座「袖ヶ浦学」の開催		5回	第172回「密着！ちばの生物多様性」、第173回「袖ヶ浦の石造物ー子安信仰を中心にー」、第174回「チバニアンと房総半島と袖ヶ浦」、第175回「袖ヶ浦の外来種」、第176回「そではく冬のバードウォッチング2025」（2月15日実施予定）
	夏の子ども向けイベントの開催		1回	「上池いきもの調査隊！」
	ミュージアムフェスティバルの開催		1回（2日間）	6月8日（土）・9日（日）
<p>■成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミュージアムフェスティバルでは、2日間での2,740人が入場し、袖ヶ浦学は1月31日までの4回でのべ109人が参加するなど、普段博物館へ来館しない方へのPRや、博物館へ多様で深い学びを求める利用者のニーズに応えることができた。 ・博物館と友の会の協働事業は、4回実施した。 <p>■課題</p> <p>オンライン講座などについては、環境整備や導入についてさらなる検討をし、実施に向けて計画する必要がある。</p>				
③ 博学連携事業の拡充	校外学習支援（市内・市外）	年15件	16件783人	2月6日現在 中学生：榎の実特別支援学校中学部
	資料の貸出	年6件	6件68点	平岡小、奈良輪小2件、根形小、白百合女子大、総合教育センター
	学習相談		3件	
	教員対象研修の実施		0回	
	学校向けワークシートの作成・活用			小学校3年・6年の校外学習で使用。
	アウトリーチ活動（出前講座・出前授業・現場出張）	アウトリーチ 実施回数 年3件	6件841人	蔵波小3・6年、昭和小3・6年、奈良輪小6年生
	山野貝塚体験型プログラム実践（中学生版）		0件	
学校図書館との連携促進（物流システムの活用等）		3件	学校図書館への資料貸出（平岡小2件、根形小）	
<p>■成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校3年生・6年生の体験学習について、事前打ち合わせを十分に行うことで各学校の状況も考慮し、要望に合わせたメニューで実践することができた。 ・学校図書館司書と情報共有をはかり、資料貸出や図書物流の利用が増えた。 				

③ 博学 の 拡 充 連 携 事 業	■課題 ・近年アウトリーチが増加しており、また利用する学校は大規模校が多いためクラスも児童数も多く、これまでの人員・プログラムでは実施が難しくなっている。アウトリーチについてはさらなるプログラムの精査やスタッフの確保、学校への協力要請等、検討すべき課題が多い。 ・山野貝塚学習プログラムは、今年度利用がなかったが、周知を徹底し、今後も内容の充実を図りながら実践していく。				
	④ み ん な の 推 進 に や さ し い 事 業	高齢者施設との連携（博福連携：博物館と福祉施設等の連携）		64件 637人	2/11現在
		多言語対応の推進		英語版ガイドブックの素案を作成した。	他館の実施状況について調査
	■成果 ・高齢者施設の利用者が定期的に来館し、博物館資料に親しむことで、高齢者の生活に刺激を与えることができた。 ■課題 ・高齢者施設からの利用について、満足度がわからないため、アンケート等を実施する必要がある。 ・多言語対応は、人員不足により積極的な取り組みができていないため、市民学芸員等と連携してできる方法を検討する必要がある。英語版ガイドブックが活用に至っていないので、精査し活用できるようにする必要がある。				
⑤ ボ ラ ン テ ィ ア の 養 成 と 支 援	市民学芸員主催イベントへの支援	市民学芸員自主企画事業の実施 年3回	5回		五月人形展示、七夕展示、秋の万葉こどもまつり（市民学芸員21名参加）、お飾りづくり、ひな人形展示
	市民学芸員フォローアップ研修の実施と市民学芸員の生涯学習サポート	市民学芸員研修の実施 年2回	1回実施済、2月に2回目実施予定		第1回移動研修「JAXAつくば宇宙センター・産業技術総合研究所地質標本館の見学」。第2回講座「江戸時代の山岳信仰―出羽三山を事例に―」
	市民学芸員養成講座の実施と新規市民学芸員の育成 【令和6年度重点取組】	講座年8回	11回		
	〃	新規市民学芸員2人	5名加入		
	他機関事業への協力		市民学芸員2名参加		9/24のぞみ野まつり2024
	地域史掘り起こし研究への支援		市民学芸員郷土を学ぶ会活動支援及び助言		
	グループ活動の支援		2グループ活動支援		万葉グループ、郷土を学ぶ会
	企画展ワーキンググループ活動への支援		5名参加		写真撮影、調査・分布図作成、展示品借用補助、展示作業、展示効果品作成等
	館蔵資料整理		企画展「出羽三山と袖ヶ浦の山岳信仰」の準備として実施		
	他機関主催研修会への参加		市原歴史博物館市民学芸員との交流会		3/12実施予定
	■成果 ・昨年度に引き続き市民学芸員養成講座を開催した。11回の講座を終了し今年度は5名の新規市民学芸員が加入した。企画展Ⅰ「出羽三山と袖ヶ浦の山岳信仰」にはワーキンググループを結成し、活動することができた。活動について外部からの評価も高まり、市原歴史博物館からの要望で市民学芸員同士の交流会も実施予定である。 ■課題 ・市民学芸員養成講座により登録者数が増加し、新たな人材が校外学習やイベントで活躍し始めているが、実際に活動に参加している者が固定化している傾向にある。参加しない登録者について意向調査や興味関心を持てる講座の開催など、さらに工夫する必要がある。				
⑥ 術 上 の 支 援 研 究 会	活動場所の確保			「水のふるさと」における活動支援	
	資材調達			消耗品等購入	
	活動PR			テレビ撮影協力	
⑦ 郷 土 博 物 館 友 の 会	『友の会だより55・56号』の発行			『友の会だより』55・56号の発行	
	友の会各グループ活動（凧の会・何でも有り会・仏像を学ぶ会・土器作りの会、古文書いろはの会、機織りの会、盆栽愛好会、植物画葉月の会）への支援			グループ活動への支援	
	友の会グループ主催イベント（新春凧揚げ会、盆栽展示など）への支援			新春凧揚げ会、盆栽展（2回）開催への支援	
⑧ 物 か 館 ら 幼 体 の 見 学 博 期	親子向け事業の開催			秋の万葉こどもまつりの開催	
(3)市民の生涯学習拠点としての安全・安心な施設を提供します。					
	項目	事業目標値	実績	備考	
施 設 管 理	安全点検の実施(月1回)		月1回施設安全点検実施		
	避難訓練、消火訓練及び救急訓練の実施		本館火災避難訓練実施、旧進藤家住宅で避難訓練・消火訓練実施		

施設管理事業	I P M (日常的に収蔵環境を管理し、薬剤だけに頼らず文化財等をカビや虫等の有害生物から防除する方法：総合的病害生物管理) の理念に基づいた展示、収蔵環境管理の実践		毎日	
	日常的な施設の維持管理及び修繕による安全確保		本館浄化槽チェッカープレート交換修繕 学芸員室系統空調交換工事	

(4)博物館の社会的役割を意識し、地域に貢献します。

	項目	事業目標値	実績	備考
① 周辺施設との連携	公民館、図書館等社会教育機関でのアウトリーチ活動(出前講座・展示・現場出張サービス)		10件	館内での対応含む(公民館講座による博物館の見学対応等) 公民科以外:袖ヶ浦公園管理組合動植物観察会、総合教育センター調べ学習相談会、ひらおかの里農村公園美土里ネット千葉大会(4日間)
	袖ヶ浦公園・根形公民館との連携を強化し、事業の相乗効果をはかる。		袖ヶ浦公園を利用した観察会等 2件 根形公民館講座への講師派遣 1件 根形公民館だよりへの寄稿 4回	ジュニア学芸員体験講座、野鳥観察会
② 郷土博の受入	学芸資格取得を目指す学生に対して、博物館法施行規則第1条に定める「博物館実習」の機会を提供し、後進の育成を行う。		1名 10日間 ロビー展示開催	
③ 各博物館協会協議会等への参加	日本博物館協会、関東博物館協会、千葉県博物館協会、君津地方公立博物館協議会へ参加し、各種団体及び機関との事業連携を図ります。		君津地方公立博物館協議会研修会参加 3名 千葉県博物館協会研修会参加 1名 全国博物館大会参加 1名 保存担当学芸員研修 1名(5日間)	
	千葉県史料保存活用連絡協議会		1名	
④ 博物館周辺の景観整備	緑地管理		シルバーによる整備実施	
	万葉植物園等屋外附属施設管理		会計年度任用職員による整備実施	
	公園管理組合との共通認識をもった管理		公園管理組合への情報提供・意見交換	
⑤ 動向の把握	文化財保護法や文化芸術基本法の改正に基づく国県等の動向並びにこれからの博物館制度の動きを把握する。		研修会参加 2件	全国博物館長会議、全国博物館大会
⑥ 庁内関係各課との連携	生涯学習課と連携し、文化財情報の共有や協働事業の実施により相乗効果を高める。		山野貝塚整備基本策定委員会への参加 埋蔵文化財・指定文化財情報の共有	
	公民館・図書館との連携。		講座への講師派遣 7件 図書館展示への協力 2件	長浦公民館わんぱく教室、平川公民館乳幼児家庭教育学級、八幡台公民館郷土史講座、根形公民館地域再発見講座、平岡公民館シニアセミナー、市民会館女性セミナー、富来田ふるさと講座
	■ 成果 ・生涯学習課との連携によって、より最新の文化財情報を事業に反映することができた。 ・普段、博物館に来館しない公民館・図書館等の利用者に、博物館の活動を周知することができた。			
	■ 課題 ・公民館・図書館との連携については、さらなる双方向性や継続性が必要である。			

議題（3） 令和7年度袖ヶ浦市郷土博物館経営方針及び重点施策(案)並びに
令和7年度事業計画(案)について

令和7年度袖ヶ浦市郷土博物館経営方針及び重点施策(案)

※アンダーラインは令和6年度からの変更箇所

1. 経営方針

郷土博物館では、第3期教育ビジョンの基本目標である「未来を創る 心豊かで いきいきとした人づくり」の実現に向け、生涯学習活動の機会や場を提供し、地域の人づくりや絆づくりに貢献するとともに、郷土の歴史と文化を学び後世に伝える活動を推進します。

そのため、郷土博物館は、「袖ヶ浦市郷土博物館の使命」に示す4つの項目を重点施策とし、国史跡・山野貝塚をはじめ、市内の文化遺産（地域資料）についての調査研究活動及び収集・保管・展示を行い、市の歴史を探ります。

また、市民学芸員・友の会等との協働により教育普及事業・博学連携事業のさらなる充実を図り、市民や学校への学習支援を行い、市民活動の場、知的交流の場としての利用を促進するとともに、その担い手である市民学芸員・友の会員をはじめとした人材の育成にも力を入れて参ります。

引き続き、多くの来館者が安心・安全に利用していただけるように、施設を適切に管理します。

2. 重点施策

(1)地域の文化的な個性を探り、継承し、その発信拠点となります。

博物館活動の原点である地域における調査研究と地域資料の収集・保存・管理に努め、市民の共有財産として次世代に継承します。特に、上総掘りの技術については、技術の伝承と保存に努めます。

また、地域資料の調査研究の成果を各事業の開催により市民と共有します。

さらに、ホームページ・新聞等を活用して博物館活動を広くPRし博物館利用の促進を図ります。

調査研究

- ・袖ヶ浦市の弥生時代・古墳時代に関する調査
- ・袖ヶ浦市内の生物に関する調査
- ・中世荘園に関する調査
- ・旧石器時代に関する調査
- ・古代の植物利用に関する調査 等

地域資料管理活用事業の展開

- ・地域資料の調査収集及び活用
 - ・収蔵保管資料の適正な管理
 - ・収蔵資料の修復委託（奈良輪漁業組合資料）
 - ・ホームページによる情報発信
- (事業の目標値：情報メディアによる資料公開 年3回)
- ・古文書等表題データベース作成

- ・埋蔵文化財写真デジタル化
- ・『袖ヶ浦市史研究』第23号募集

(2)市民の学習の場・知的交流の場となって、地域文化の向上に貢献します。

市民の学習や知的交流の場として、市民の多様なニーズを考慮しながら、企画展や各種イベントを計画的に開催します。また、市民が自らの意志で参画できる事業を企画し、地域の学習力や地域文化の向上に貢献します。

博学連携事業は小学校の学習指導要領に基づき、更なる充実を図るため、身近な学びの場として子どもたちが日常的に活用できるように博物館活動の周知に努めます。

さらに、博物館活動のパートナーである市民学芸員や友の会の活動を支援するとともに、新たな人材の発掘と育成を図り、市民と共に歩む博物館活動の充実を図ります。また、市内外の各種団体との連携により地域の魅力発信に努め、地域文化の向上に貢献します。

① 展示更新推進事業の展開 (事業の目標値：本館常設展入館者数 23,000人以上)

- ・企画展3回 (事業の目標値：企画展入館者数 4,500人以上/回)

令和7年度重点取組

- i 企画展Ⅰ「村の事件簿」
- ii 企画展Ⅱ「鳥 in 袖ヶ浦」
- iii 企画展Ⅲ「袖ヶ浦の美術Ⅲ 飯塚勝康展」

(事業の目標値：企画展及び常設展示への収蔵資料活用 年4件
企画展開催時の関連事業実施 企画展1回につき2回)

- ・常設展示の部分更新
- ・旧進藤家住宅での各種展示 (事業の目標値：年1回)
- ・ロビー展示・ミニ企画展等の開催
- ・万葉植物園の活用 (市民学芸員協働実施)
- ・指定文化財の活用

② 教育普及事業の推進 (事業の目標値：諸団体との協働事業の実施回数 年5回)

- ・考古学専門講座の開催
- ・博物館講座「袖ヶ浦学」の開催
- ・友の会、市民学芸員、上総掘り技術伝承研究会等諸団体との協働による事業の開催
- ・夏の子ども向けイベントの開催
- ・市民学芸員イベントの開催

③ 博学連携事業の拡充

- ・校外学習支援(市内・市外) (事業の目標値 年15件)
- ・資料の貸出 (事業の目標値 年6件)
- ・学習相談
- ・教員対象研修の実施
- ・学校向けワークシートの作成・更新・活用
- ・アウトリーチ活動(出前講座・出前授業・現場出張)
(事業の目標値：アウトリーチ 実施回数 年3件)
- ・山野貝塚体験型プログラムの活用

- ・学校図書館との連携促進（物流システムの活用）
- ④ **みんなにやさしい事業の推進**
 - ・高齢者施設との連携（博福連携：博物館と福祉施設等の連携）
 - ・多言語対応の推進
- ⑤ **ボランティアの養成と支援**
 - ・市民学芸員主催イベント(万葉こどもまつりなど)への支援
(事業の目標値：市民学芸員自主企画事業の実施 年3回以上)
 - ・市民学芸員フォローアップ研修の実施と市民学芸員の生涯学習サポート
(事業の目標値：市民学芸員研修の実施 年2回以上)
 - ・市民学芸員養成講座の実施と新規市民学芸員の育成
(事業の目標値：新規市民学芸員2人以上)
 - ・地域史掘り起こし研究への支援
 - ・記録誌作成 **令和7年度重点取組**
 - ・グループ活動の支援
 - ・館蔵資料整理
 - ・協働による企画展の開催のための調査等
- ⑥ **上総掘り技術伝承研究会活動の支援**
 - ・活動場所の確保
 - ・資材調達
 - ・活動PR
- ⑦ **郷土博物館友の会活動の支援**
 - ・『友の会だより 57・58号』の発行
 - ・友の会各グループ活動(凧の会・何でも有り会・仏像を学ぶ会・土器作りの会、古文書いろはの会、機織りの会、盆栽愛好会、植物画の会)への支援
 - ・友の会グループ主催イベント(新春凧揚げ会、盆栽展示など)への支援

(3)市民の生涯学習拠点としての安全・安心な施設を提供します。

市民の快適な学習環境を整えるために管理施設について定期的に点検を実施し、状況を把握します。また、不具合が生じた箇所については、修繕等を行い、施設を維持管理し、安全な学習環境を整えます。

施設管理事業

- ・安全点検の実施(月1回)
- ・避難訓練、消火訓練及び救急訓練の実施
- ・IPM（日常的に収蔵環境を管理し、薬剤だけに頼らず文化財等をカビや虫等の有害生物から防除する方法：総合的病害生物管理）の理念に基づいた展示、収蔵環境管理の実践
- ・日常的な施設の維持管理及び修繕による安全確保

(4)博物館の社会的役割を意識し、地域に貢献します。

学校・他の社会教育機関・博物館等とのつながりや地域の企業、NPO等との交流・連携をより強化するとともに、袖ヶ浦公園・周辺の遺跡・歴史遺産を活用し、博物館と市民が融合した魅力的な博物館活動を継続します。

① 周辺施設との連携

- ・公民館、図書館等社会教育機関でのアウトリーチ活動（出前講座・展示・現場出張サービス）
- ・袖ヶ浦公園・根形公民館等との連携を強化し、事業の相乗効果をはかる。

② 郷土博物館実習生の受入

- ・学芸資格取得を目指す学生に対して、博物館法施行規則第1条に定める「博物館実習」の機会を提供し、後進の育成を行う。

③ 各博物館協会協議会等への参加

- ・日本博物館協会、関東博物館協会、千葉県博物館協会（令和6・7年度役員）、君津地方公立博物館連絡協議会へ参加し、各種団体及び機関との事業連携を図ります。

④ 博物館周辺の景観整備

- ・緑地管理
- ・万葉植物園等屋外附属施設管理
- ・公園管理組合との共通認識をもった管理

⑤ 国県等の博物館施策及び文化財保護行政の動向把握

- ・文化財保護法や文化芸術基本法の改正に基づく国県等の動向並びにこれからの博物館制度の動きを把握する。

⑥ 庁内関係各課との連携

- ・生涯学習課と連携し、文化財情報の共有や協働事業の実施により相乗効果を高める。
- ・生涯学習課と連携し、山野貝塚の整備計画の検討及び山野貝塚展示室の充実を図るための検討を行う。
- ・公民館・図書館との連携

		内容等	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
博物館協議会		年3回開催				第1回				第2回			第3回	
博物館運営事業														
教育普及事業	ミュージアム・フェスティバル	年1回開催		第2回実行委員会	7日(土)・8日(日) 第3回実行委員会									
	講座 袖ヶ浦学	年5回開催		第177回袖ヶ浦学 (友の会共催)		第178回袖ヶ浦学			第179回袖ヶ浦学		第180回袖ヶ浦学		第181回袖ヶ浦学	
	博物館学芸員実習	7月23日～8月5日 (10日間) 5名募集		・大学からの実習依頼文 ・回答		実習予定表作成・送付 7月23日(火)～8月5日(水)(10日間) 博物館実習	7月23日(水)～8月5日(火)(10日間) 博物館実習 大学宛評価表送付					令和8年度要項作成・HP掲載		
	その他					ジュニア学芸員体験講座								
博学連携事業	校外学習支援等	体験学習支援 学習相談対応 資料・図書貸出		← 小学校6年生 校外学習								→ 小学校3年生 校外学習		
	出前授業・展示	アウトリーチ 出前展示の実施												
	その他													
展示更新推進事業	特別展・企画展	企画展年2回開催		企画展Ⅰ「村の事件簿」 5月3日(土)～7月15日(日)					企画展Ⅱ「鳥in袖ヶ浦」 10月4日(土)～12月15日(日)					企画展Ⅲ「袖ヶ浦の美術Ⅲ 飯塚勝康展」3月～4月
	トピックス展 ミニ展示											ロビー展示「日本の郷土風」		
	旧進藤家住宅				盆栽展(ミュージアムフェスティバル)				盆栽展					ひな人形展示(旧進藤家住宅)
	万葉植物園	屋外施設の活用												
地域資料管理活用事業	資料管理活用	・収蔵資料保存管理活用 ・資料燻蒸 ・環境調査委託			環境調査(1回目)				環境調査(2回目)			資料燻蒸		
	史料修復 奈良輪漁協				史料修復委託執行 伺い・契約						史料修復成果品納品			
	『市史研究』第22号	編集・刊行												
市民学芸員協働事業	市民学芸員活動	体験学習支援 自主企画展企画ほか ・万葉グループ第3土曜日午前活動(万葉植物園) ・葉月の会 第3土曜日午後活動(体験学習室)			7日(土)・8日(日) ミュージアム・フェスティバル	10日(木)第1回市民学芸員フォローアップ研修					お飾りづくり		21日(土)第2回市民学芸員フォローアップ研修(市民学芸員養成講座と合同)	ひな人形展示(旧進藤家住宅)
	市民学芸員養成講座	年間11回・広報で募集	19日(土)市民学芸員養成講座①オリエンテーション	10日(土)市民学芸員養成講座②小学校6年生体験学習スタッフ養成講座	21日(土)市民学芸員養成講座③博物館の仕事を見よう「バックヤードツアー」	23日(水)市民学芸員養成講座④IPMIについて学ぼう(博物館実習と合同)	23日(土)市民学芸員養成講座⑤そではく辛口採点会	20日(土)市民学芸員養成講座⑥博物館の調査研究とフィールドワークの心得	18日(土)市民学芸員養成講座⑦フィールドワーク実習	8日(土)市民学芸員養成講座⑧よその博物館を見に行こう(バス移動講座)	13日(土)市民学芸員養成講座⑨小学校3年生体験学習スタッフ養成講座	17日(土)市民学芸員養成講座⑩資料整理の基礎	21日(土)市民学芸員養成講座⑪修了式・記念講演会(フォローアップ研修と合同)	
施設管理事業		施設の修繕・工事等												
友の会 8グループ(仏像を学ぶ会、何でも有り会、土器作りの会、風の会、古文書いろはの会、機織りの会、盆栽愛好会、植物画の会)活動		協働事業:自然と歴史の散策会(年2回)ほか 第2・4金曜日古文書いろはの会 毎週水曜日機織りの会	総会			7日(土)・8日(日) ミュージアム・フェスティバル			第1回役員会	第2回自然と歴史の散策会		新春風揚げ大会	第2回役員会	
上総掘り技術伝承研究会		定例活動日 毎週日曜日・又は土曜日	総会			7日(土)・8日(日) ミュージアム・フェスティバル								
休館日			7日(月)・14日(月)・21日(月)・30日(月)	7日(水)・12日(月)・19日(月)・26日(月)	2日(月)・9日(月)・16日(月)・23日(月)・30日(月)	7日(月)・14日(月)・22日(火)・28日(月)	4日(月)・12日(火)・18日(月)・25日(月)	1日(月)・8日(月)・16日(火)・22日(月)・24日(水)・29日(月)	6日(月)・14日(火)・20日(月)・27日(月)	4日(火)・10日(月)・17日(月)・25日(火)	1日(月)・8日(月)・15日(月)・22日(月)・26日(金)～31日(水)	1日(木)～5日(月)・13日(火)・19日(月)・26日(月)	2日(月)・9日(月)・12日(木)・16日(月)・24日(火)	2日(月)・9日(月)・16日(月)・23日(月)・30日(月)